

ボールポゼッション率・有効攻撃数が勝敗に与える影響

Content of victory is influenced by the ball possession and effective attacks

1K10C249-1 竹谷 昂祐

主査 堀野 博幸 先生

副査 土屋 純 先生

【序論】

近年、世界の主要大会である EURO 2008 スイス・オーストリア、2010 FIFA ワールドカップ南アフリカ、EURO 2012 ポーランド・ウクライナで優勝したスペインは現在、世界一のチームである。そのスペイン代表はポゼッションサッカーを志向しており、2008 年から現在にかけてポゼッションサッカーの全盛期を迎えているといえる。しかし、2013 年に入り、ポゼッションサッカーを志向するチームが次々と敗れ、戦術の転換期を迎えているのではないかと考える。

本研究においては、その戦術の転換期を迎えている今、ポゼッション率が勝敗に与える影響を明らかにすることで有益なものになると考えた。また、データを記録することによって、これからのサッカーの戦術の変遷の予測の手助けになると考えた。

【方法】

1. 分析対象

FIFA ワールドカップ 2010 南アフリカの全 64 試合、UEFA EURO 2012 ポーランド・ウクライナの全 31 試合の合計 95 試合を対象とする。

2. 分析項目

全 95 試合の有効攻撃数、ボールポゼッション率を記録した。

3. 統計

χ^2 検定を行い、そこで有意差がでた場合、残差分析を行なった。

【結果】

1. ポゼッション率が上回ったときの勝敗

ポゼッション率が上回った試合のほうが勝率は高いものの、勝ち、引き分け、負けどの項目においても有意差はみられなかった。

2. 2 群間におけるポゼッション率の関係性

ベスト 4 チームはポゼッション率で上回っている試合を多くしていることが明らかになった。また、ベスト 4 以外のチームはポゼッション率が下回る試合を多くしていることが明らかになった。この 2 つの項目において有意差がみられた。

3. 3%ごとの勝敗の推移

60%を超えると勝率が高まっはいるが、どの項目においても有意差がみられなかった。

4. 4 グループの勝敗

ポゼッション率、有効攻撃数ともに上回った試合のグループ 1 は勝ち数が他の項目より多いことが明らかになった。また、ポゼッション率、有効攻撃数ともに下回った試合のグループ 4 は負け数が他の項目より多いことが明らかになった。互いに有意差がみられた。

表 4 グループの勝敗

	勝ち	引き分け	負け
グループ 1	2.949	0.603	-3.469
	**	ns	**
グループ 2	0.084	-0.658	0.509
	ns	ns	ns
グループ 3	0.084	-0.05	-0.038
	ns	ns	ns
グループ 4	-2.915	-0.127	3.007
	**	ns	**

+p<0.10, *p<0.05, **p<0.01

【考察】

全 95 試合を対象としてボールポゼッション率で上回った場合、勝率が高まることは明らかにならなかった。しかし、ベスト 4 に進出しているチームはポゼッション率で上回った試合を多くしていることから、個の能力が高い選手を擁している強豪チームは相手よりポゼッション率で上回ると考察する。今後の課題に関してだが、考察の有意性を明らかにするために相手陣内でのポゼッション率を測定し、そのデータがどのように勝敗に影響を与えるのかを明らかにしたい。

【結論】

ポゼッションはあくまでも試合を有利に進めるための手段であるということ、ボールをポゼッションできていたとしても有効攻撃を多くしなければ、試合には勝てないことが明らかになった。有効攻撃を多く行うためのポゼッションをすることが勝率を高めることが明らかとなった。